

「アートマイル交流イベント in インドネシア」(2008. 8. 23-28)

～共に描き、共に歌い、共に踊った中学生たち～

ジャパンアートマイル代表 塩飽 隆子

2008年は日本・インドネシア友好50年である。2～3月には記念事業として、日本の小学生とバリ島ウブドの小学生が共同制作した壁画をバリ最大のネカ美術館で展示する「アートマイル壁画展」を開催した。両国の友好の絆をさらに深めようと、今回は日本の中学生がウブドを訪問し、バリの中学生と一緒に壁画を制作するアートマイル交流イベントを行った。両国の子どもたちの芸術を通じた交流は、壁画の共同制作、アニメ文化交流、伝統文化交流と多岐にわたり、参加した中学生たちは共に描き、共に歌い、共に踊り、友好の絆を深めた。

交流① 壁画共同制作－ネカ美術館

1 日程

[日時] 2008年8月23日

[場所] バリ島ウブド ネカ美術館

2 ねらい

同じアジアに住む日本の中学生とインドネシアの中学生が、一つのキャンパスに向かってアイデアを出し合い、相談しながら絵を描くことで、相手を理解し互いを尊重して友好を深める。

3 内容

2枚の壁画を共同で制作した。日本側の参加者は海外との文化交流に関心の高い中学3年生(兵庫県)の6人、インドネシア側は絵画コンクールで賞を取った6人(バリ)。1枚は日本の生徒が下絵を描き、もう1枚はインドネシアの生徒が下絵を描いて、一緒に色を塗って壁画を完成させた。相談しながら描く過程は、お互いを知り、違いを理解し、相手を尊重する過程となった。



交流② 壁画共同制作－ディアトミカ校

1 日程

[日時] 2008年8月24日

[場所] バリ島デンパサール ディアトミカ校

2 ねらい

9月からスタートするアートマイル国際交流共同壁画制作プロジェクトに参加するディアトミカ校を訪問し、交流基盤を築く。

壁画を一緒に制作することで友好を深める。

3 内容

今年のアートマイル交流の参加校であるディアトミカ校を訪問し、交流グループのメンバーと壁画を共同制作した。生徒たちは互いに積極的にコミュニケーションをとりながら心をつなげて「両国の友好」を絵で表現した。



交流③ アニメ文化交流-チャンプアン校

1 日程

[日時] 2008年8月25日

[場所] バリ島ウブド チャンプアン校

2 ねらい

インドネシアは日本のアニメが浸透している国。異なった国の同じ世代の若者が共通の文化であるアニメを通して価値観を共有しながら、相違点と類似点を発見し、相互理解を深める。

3 内容

事前にアンケートを採り、双方で希望が多かった「千と千尋の神隠し」を一緒に鑑賞。共に笑い、涙し、お互いを近く感じた。アニメを題材としたクイズでは、自分たちが共通の文化を持っていることを実感、親密度が増した。日本の生徒が日本のアニメの歌とリコーダーによる演奏を披露、インドネシアの生徒は日本のアニメの歌をインドネシア語と日本語で歌ってくれた。自分たちで英語で直接話をし、気持ちが通じているという実感のある良い交流となった。



交流④ 伝統文化交流-ビラビントン

1 日程

[日時] 2008年8月23日

[場所] バリ島ウブド ビラビントン

2 ねらい

芸術の村と呼ばれるウブドの子どもたちと日本の子どもたちの伝統文化交流。

3 内容

ウブドで伝統文化を継承している子どもたちの踊りと、日本の子どもたちの日本の歌とリコーダー演奏で、文化交流を行った。



4 成果

この度の訪問では1週間という短い滞在期間にもかかわらず、日本の中学生と現地の中学生が、互いを知り、互いを大切にする貴重な体験をし、相互理解と異文化理解が実現できた。

日本から参加した生徒の感想文からもその成果が伺える。

【生徒A】バリの子と一緒に絵を描く時、はじめはコミュニケーションが取れなくて焦ったけれど、だんだん意見交換ができるようになると感性の違いが見えてきて、面白いと思いました。絵が完成した時は本当に感動しました。

【生徒B】日本を離れて日本をあらためて客観的に見ることができました。日本にいて当たり前前に思っていたことが他の国では当たり前ではないことが、バリの子たちと話をして分かりました。自分が人に自慢できることを持つことは素晴らしいことだと教えられました。

【生徒C】言葉は心で伝えるものだと思います。